

平成16年度

国有林野の管理経営に関する
基本計画の実施状況

国有林野の管理経営に関する基本計画の実施状況は、「国有林野の管理経営に関する法律」(昭和26年法律第246号)第6条の3第1項の規定に基づき公表するものである。

平成17年9月

農 林 水 産 省

目 次

平成16年度の実施状況の概要について	1
1 国有林野の管理経営に関する基本方針に基づく管理経営の推進	5
(1) 公益的機能の維持増進を旨とした管理経営	5
重視される機能に応じた管理経営の推進	5
ア 水土保全林	6
イ 森林と人との共生林	7
ウ 資源の循環利用林	8
路網の整備	9
治山事業の実施	10
(2) 森林の流域管理システムの下での管理経営	12
民有林との連携による森林・林業の活性化	12
流域管理推進アクションプログラムの取組	14
(3) 国民の森林としての管理経営	15
双方向の情報受発信	15
森林環境教育の推進	17
森林整備・保全への国民参加	20
ア 分収林制度による森林づくり	20
イ NPO等による森林づくりの支援	21
ウ 木の文化を支える森づくり	22
エ 生物多様性の保全や自然再生活動の支援	23
(4) 地球温暖化防止対策の推進	25

2 国有林野の維持及び保存	28	イ ITの活用	50
(1) 森林の巡視、病虫害の防除等適切な森林の保全管理	28	ウ 労働安全衛生の確保	50
森林の巡視及び境界の保全	28	(2) 平成16年度の収支	51
森林病虫害の防除	29		
保安林の適切な管理	30	6 その他国有林野の管理経営	53
(2) 保護林など優れた自然環境を有する森林の維持・保存	31	(1) 人材の育成	53
保護林の設定及び保全・管理の推進	31	(2) 林業技術の開発普及	54
「緑の回廊」の整備の推進	33	(3) 地域振興への寄与	55
野生動植物の保護管理の推進	35	(4) 労使協力の推進	55
地域やNPO等との連携による保護活動の推進	37		
環境行政との連携	38	(参考)	
3 国有林野の林産物の供給	40	1 用語の解説	58
(1) 計画的な収穫の実施	40	2 林野庁、森林管理局のホームページアドレス	62
(2) 林産物等の販売	41	(索引)	
4 国有林野の活用	44	図及び表の索引	63
(1) 国有林野の活用の適切な推進	44		
国有林野の貸付け	44		
林野・土地の売払い	45		
(2) 公衆の保健のための活用の推進	46		
5 国有林野の事業運営	49		
(1) 管理経営の事業実施体制	49		
ア 民間委託の推進	49		

平成16年度の実施状況の概要について

（国有林野事業の役割）

国有林野は、我が国の国土の約 2 割、森林面積の約 3 割を占めていますが、その多くは奥地脊梁山地や水源地域に分布しており、原始的な天然林も多く残されています。

このため、国有林野に対しては、国土の保全、水源のかん養、自然環境の保全、保健休養の場の提供等の公益的機能を高度に発揮させることが求められてきました。近年では、これらに加えて、地球温暖化の防止、生物多様性の保全、森林とのふれあいや森林環境教育等への貢献が求められるなど、国民の皆さんの期待や要望は、公益的機能の発揮を中心にさらに多様化しています。

国有林野事業では、国民の皆さんの多様な要請に応えるため、公益的機能の維持増進を旨として適切かつ効率的な管理経営に努めています。

（抜本的改革の推進と「管理経営基本計画」の改訂）

国有林野事業では、将来にわたって国有林野に対する要請に応えていけるよう、平成15年度末までを集中改革期間^注)として抜本的な改革に取り組み、財政の健全化とともに国有林野の適切かつ効率的な管理経営を進めていくための基礎を築いてきました。

こうした基礎の上に立って平成15年12月には「国有林野の管理経営に関する基本計画」(「管理経営基本計画」と略記)を改訂し、開かれた「国民の森林」に向けた取組を本格的に推進することとしました。

（平成16年度の実施状況）

本報告は、この平成16年度における管理経営基本計画の実施状況について、国民の皆さんの理解をいただけるよう、写真と図表を用いてできるだけわかりやすく記載したものです。

新たな管理経営基本計画のポイント

—名実ともに開かれた「国民の森林」の実現に向けて— 公益的機能の維持増進

- ・ 国民の要請の高まりを踏まえた公益林の一層の拡大
- ・ 針葉樹と広葉樹の混交の促進
- ・ 長伐期施業や複層林施業の推進

森林環境教育や森林とのふれあい等の推進

- ・ 学校が体験活動を行うための「遊々の森」
- ・ 企業による社会・環境貢献活動としての「法人の森林」
- ・ NPOによる自主的な森林整備のための「ふれあいの森」
- ・ 伝統文化の継承に貢献する「木の文化を支える森づくり」

新たな政策課題への率先した対応

- ・ 地球温暖化防止への取組（育成林の整備、天然生林の保全管理）
- ・ 生物多様性の保全への取組（希少種の保護、移入種の侵入防止）

双方向の情報受発信を基本とする対話型の取組

- ・ 情報の開示や広報を通じた透明性の確保
- ・ 国民の要請の的確な把握
- ・ 国民の要請を反映した管理経営の推進

(平成16年度の主な取組)

平成16年度に実施した主な取組は以下のとおりです。

(1) 公益的機能の維持増進

森林の公益的機能を維持増進させるため、長伐期施業や針葉樹と広葉樹の混交などによる育成複層林施業を実施しました。(本文6ページ)

特に、森林の健全性を保つため、需要拡大にも努めながら、間伐を推進しました。(本文8ページ)

度重なる台風による山地災害や新潟県中越地震による災害の復旧に迅速に対応しました。(本文10ページ)

(2) 森林環境教育や森林とのふれあい等の推進

学校等を対象に国有林野を森林環境教育の場として提供する「遊々の森」の協定を新たに全国22箇所締結しました。(本文17ページ)

森林整備への国民参加を促進するために設定した、全国145箇所の「ふれあいの森」で、延べ1万3千人の方に森林づくり活動に参加いただきました。(本文21ページ)

伝統文化の継承等に貢献するため、「古事の森」や「木うその森」等を新たに3箇所設定し、「木の文化を支える森づくり」活動を推進しました。(本文22ページ)

自然再生などに取り組む市民団体などの活動を支援するため、全国10箇所に「森林環境保全ふれあいセンター」を設置しました。(本文23ページ)

(3) 新たな政策課題への率先した取組

地球温暖化の原因となる二酸化炭素の吸収・貯蔵を進めるため、健全な森林の育成や治山事業等における木材の利用を推進しました。(本文25ページ)

また、離島で行う海水を利用した発電の用地等として国有林野の利活用にも努めました。(本文25、44ページ)

生物多様性の保全等を図るため、全国3箇所新たな保護林を設定しました。(本文31ページ)

また、全国で19箇所、39万ha設定している緑の回廊において、野生動植物の生息・生育環境の保全に努めました。(本文33ページ)

(4) 双方向の情報受発信を基本とする対話型の取組

広く国民の皆さんの声を聴き、管理経営に活かすため「国有林モニター」を公募しました。(本文15ページ)

(5) 林産物の持続的かつ計画的な供給

自然環境の保全に配慮しつつ、林産物を持続的かつ計画的に供給し、地域における木材の安定供給に貢献しました。また、民有林からの供給が期待しにくい銘木の供給にも努めました。(本文40ページ)

(6) 効率的な事業の実施

伐採・造林等の事業について委託化を進め、そのほとんど

を民間委託化するなど、効率的な事業運営に努めました。(本文49ページ)

木材価格の下落等厳しい状況の中、収支両面にわたる努力を行い、新規借入金ゼロを達成し、29年ぶりに借入金依存から脱却しました。(本文51ページ)